

「みやざきと子ども達を紡ぐプロジェクト」感想

「舞台裏のお仕事体験」

協力: 都城まちづくり株式会社、ダンスアーティスト HIDEKIN 氏、Dance Dojo.の皆さん

日時: 2024年1月28日(日) 13:30~16:00

会場: 都城ウエルネス交流プラザ ムジカホール

※参加者 7名、ボランティアスタッフ 5名、ダンスアーティスト HIDEKIN 氏、Dance Dojo.の皆さん
都城ウエルネス交流プラザスタッフの皆さん

今回、都城まちづくり株式会社さんのご協力を頂き、「舞台裏のお仕事体験」を実施することができました。初めてのこと、初めての場所、初めての人、たくさんの方が苦手な子ども達ですが、交流プラザのスタッフの皆さんが細やかで丁寧な対応をしてくださり、子ども達は安心して体験に取り組むことができました。最初は緊張していた子ども達ですが、舞台裏や機材を見ていくうちに、少しずつ笑顔も見られ全身の緊張もほぐれていくようでした。照明と音響の機材に実際に触れているときの子ども達の表情は、見ている大人の私たちも笑顔になるくらい良いものでした。体験の後は HIDEKIN さんや Dance Dojo.の皆さんのダンスに合わせて、自分たちが作った照明プログラムで照明スタッフさんと音響スタッフさんのプロの技を見ることができました。最後は全員で写真撮影をしました。子ども達は凄く疲れた様子でしたが、とっても楽しんでくれたようです。貴重な体験にご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

ポン太クラブ 外山



参加者の感想

【舞台製作のお話と舞台裏の見学】

- ・舞台の裏はダンスの発表会とかで何度も見たことがあった。ライトを手動で動かすのは凄いと思った
- ・ピンライト？みたいなのが一番おもしろかった
- ・プログラミングっばいかな。←記憶とか
- ・今まで何回か舞台裏に入ったことはあったけど、その会場ごとで配置が違って、また1つ学びになりました
- ・舞台裏でもたくさん努力しているのがよくわかりました
- ・おもしろかった
- ・とても楽しくて良い体験で、またやりたいと思いました

【音響の体験】

- ・マイクの音がボタンで変えられるのがすごいと思った
- ・クイズの音を出すのが楽しかった
- ・目に見えない物をコントロールする能力。電気情報工学科も目に見えないのでコツを教えてほしい(笑)
- ・スピーカーが舞台上にあるのとないのとでは全く聴こえ方が違ったことを初めて体感できて楽しかったです
- ・とても音響の才能がありました
- ・いろいろな音がきけた
- ・押すタイミングがすごくむずかしかったです。きれいな明りにできてよかったです

【照明の体験】

- ・ボタンと照明の場所を覚えるのが大変そうだった
- ・光、色の3原色。様々な角度や光度、色の組み合わせで音楽とのタイミング、忙しそう
- ・1つ1つ手作業で1から組み合わせてライトを作っていたことに感動しました
- ・明るさや色を調整するのがすごく楽しかったです
- ・自分で照明をつくれた
- ・ピンスポットが一番楽しかった。実際に音楽に合わせてやってみたい

【今後、舞台裏のお仕事体験があれば、また参加したいと思いますか？】

◆はい(5名)

- ・また音響や照明の体験をしたいです
- ・楽しかった
- ・お仕事体験が好きなので選びました
- ・時間が少なくて質問できなかった。沼の世界だろうから、もっと追求したい
物理法則(波かな)を基盤とした原理を知りたい
- ・舞台に興味がある人ならもちろん、あまり興味のない人でも興味を持つきっかけになるので、
いい機会だと思うから

◆いいえ(0名)

◆どちらともいえない(1名)

- ・一度行ったから満足した

【体験してみたい仕事があれば教えてください】

- ・動物園の飼育員
- ・特にありません。満足です
- ・声優！！
- ・映画館の裏の仕事

【その他にも何かありましたらご記入ください】

- ・緊張はしましたが楽しかったです。音響や照明にはどちらかというあまり興味はありませんでしたが、興味がなく知らないことが多いからこそとても楽しかったです
- ・ボランティアスタッフの方が気にかけて水を買ってきてくださったり、とてもありがたかったです
- ・本番の音楽開始のボタン押すのに緊張してしまって自分の番が終わって気が緩んだのと、大きな音で鼓動が早まって感情が抑えられなくなりました。
- ・企画から準備までありがとうございました🍀なれない事だったので疲れましたが、なかなかできない体験で楽しかったなと思います
- ・それぞれ担当して、1曲作り上げるところまでやりたかった

ボランティアスタッフの感想

- ・ホントにいい経験をさせて頂きました。思っていたより裏の裏まで見学させて頂き、参加者よりワクワクしていた感があります。音響機器の配慮にも感動しました。分かりやすく丁寧に、そして分かりやすく説明して頂いて、長時間にも関わらず集中力が切れなかったのは凄い事だと思いました。〇〇君は、落ち着いていたし。〇〇君は、目をキラキラさせて参加していたし。〇〇ちゃんは「この仕事に就きたいと思っている」って前のめりだし。そんな様子を見ているのも楽しかったです。交流プラザさんの下準備と受け入れ態勢には脱帽でした。
- ・私自身にとってもいい経験でした。感想・意見的な事は、参加者を①小学校高学年～中学生、②高校生に分けてはどうでしょうか？①は職場見学がメインで時間も短く、②は職場体験がメインでより詳しく時間をかけて。高校生は、職業に関しては現実的な事かと思えますし、ある程度長くても体力的には大丈夫かと思えます。分けて行う場合は日時を分けたり、実施して頂く企業さんにもより多くのご協力が必要とはなりますが・・・参加者の募り方について、各学校にもっと積極的に子供達に伝達してもらえたらいいなと思います。現実的なものか分かりませんが、理想も含めての意見です。
- ・気も使いましたがそれ以上に、はしゃぎすぎないようにするのに疲れしました。みんなが楽しんでくれたのがホントに嬉しいです。
- ・舞台裏を見て歩くのも、見れば見るほど時間が足りない・・・！はしご登ってみたい、スポットが動くともう少し見たい、光のパターン5つくらい作って、何メロは誰のパート っていうのも見たいなー …欲が出る出る。
- ・〇〇ちゃんに、どういうイメージで光を作ったか聞いたら「推しカラーです。推しが誰かは言わないけど」と。そういうのを聞くと、今のは自分のだ！ってわかったらもっと嬉しかったかなーと思いました。
- ・みんな休みつつ最後まで居られてよかったです(私がホッとした)
- ・初めて見る舞台裏と機材を見るたびに皆で「うおお～」っと盛り上がり、知るって楽しいと思えました。ただ初めての事を沢山学んだので、思っていた以上に脳も体も疲れた自分に驚き！休憩の時間と回数を増やした方が良かったなと反省。ケータリングのお菓子が美味しくて、なんかほっとしました。準備して下さり、ありがとうございました。
- ・体験としての光のプログラム作成は色やライトの場所も目に見えるので子ども達にもわかりやすかったかなと(スイッチが沢山あり使いこなせるプロはやっぱり凄い！)。音は目に見えず、周波数で消す？調整する？クラシックやバンドでは求める音も違うので希望する音を作る為の準備、マイク1本1本の音の調整等々、かな

りたくさんの事前準備が必要なことがわかりました。これまたスイッチが沢山あって、経験を積み重ねたプロならではの凄さだと思いました。照明も音響も機材のスイッチが沢山あり、それを瞬時に操作して綺麗な照明と音を作り上げていくスタッフさん、カッコよかったです♥目の前で体感できて本当に贅沢な時間でした。

- ・簡単に体験できる内容ではないので、普段から勉強したいと思ったら、どうしたらいいのかなと思いました。舞台裏は身近な仕事？ではない。何を学ぶと良いとかアドバイスがありますか？
- ・興味のある子どもさんはいらっしゃるので、1回の体験ではなく、曲を決めてピンスポット担当とか、照明、音響担当、アナウンス担当とか、得意な部分で募集して打合せ、練習、本番発表もいいなと妄想しました。舞台美術小物製作に興味のある大人にも刺激的で楽しそう(笑)そこまでいくと体験ではなく受講料必須の講座ですね。楽しいことは妄想も膨らんでいく～

保護者さんより

- ・家に帰って、ホッとしたのか元気を取り戻しました。舞台裏の仕事に興味があったので、楽しんだようです。また、やりたいと言っていました。
- ・集団が苦手なところもあるので、貴重な経験が出来たと思います。本当はもっと専門的に学びたかったんだろうなと感じました。またやりたい気持ちはあるようです。
- ・自分で作った照明が使われたのが感動したらしく『見た？あれ、作ったんだよ』と報告してくれました。貴重な体験に参加させていただき、とてもいい経験になったと思います。ありがとうございました。
- ・今回は貴重な体験をありがとうございました。学校に行けていない息子は他者と交流をしたり、さまざまな体験の機会が必然的に少なくなってしまうのですが、小さい頃から親しんでいるポン太での職場体験という事で安心して参加する事ができました。机上の学習も大切ですが、自らの意思で得た生の体験は何者にも変え難い経験になると思います。どこが気分上がった？と尋ねたら「機械を触った時」と。新しい場所には不安が強い息子も外山さんに自分から「もう帰ろう」と伝える事ができて成長を感じました。不登校が増えている今、公教育の在り方自体を考えなければならない時期に来ていると思います。社会性を身につけ自立した大人になるために必要な生きる力をどう育むか。学校に行けないことで、子ども達の将来の選択肢が狭まることのないように、地域福祉や教育機関がチームになって子ども達を見守り育てる体制が整っていきますように。多様な学びに寛容な教育環境が整っていく事を願っています。

